

富士見の歴史講座 第三回 平成25年6月15日(土)10:00~12:00

「武州世直し一揆」と「富士見市域」

前志木市文化財 保護審議会会長 神山 健吉氏

報告： H. S.

蒸し暑い天候の中50名の方が「富士見の歴史講座」を受講されました。今回のテーマ「武州世直し一揆」は、慶応2年(1866)6月13日~19日の1週間の出来事ではありますが、武蔵15郡・上野2郡の地域で総勢13万人規模、破壊家屋数約7000の大規模な一揆ということでした。

◆何故、世直し？

◆このような爆発的なエネルギーを巻き起こした背景は？

◆一揆沈静のための幕府の対策は？

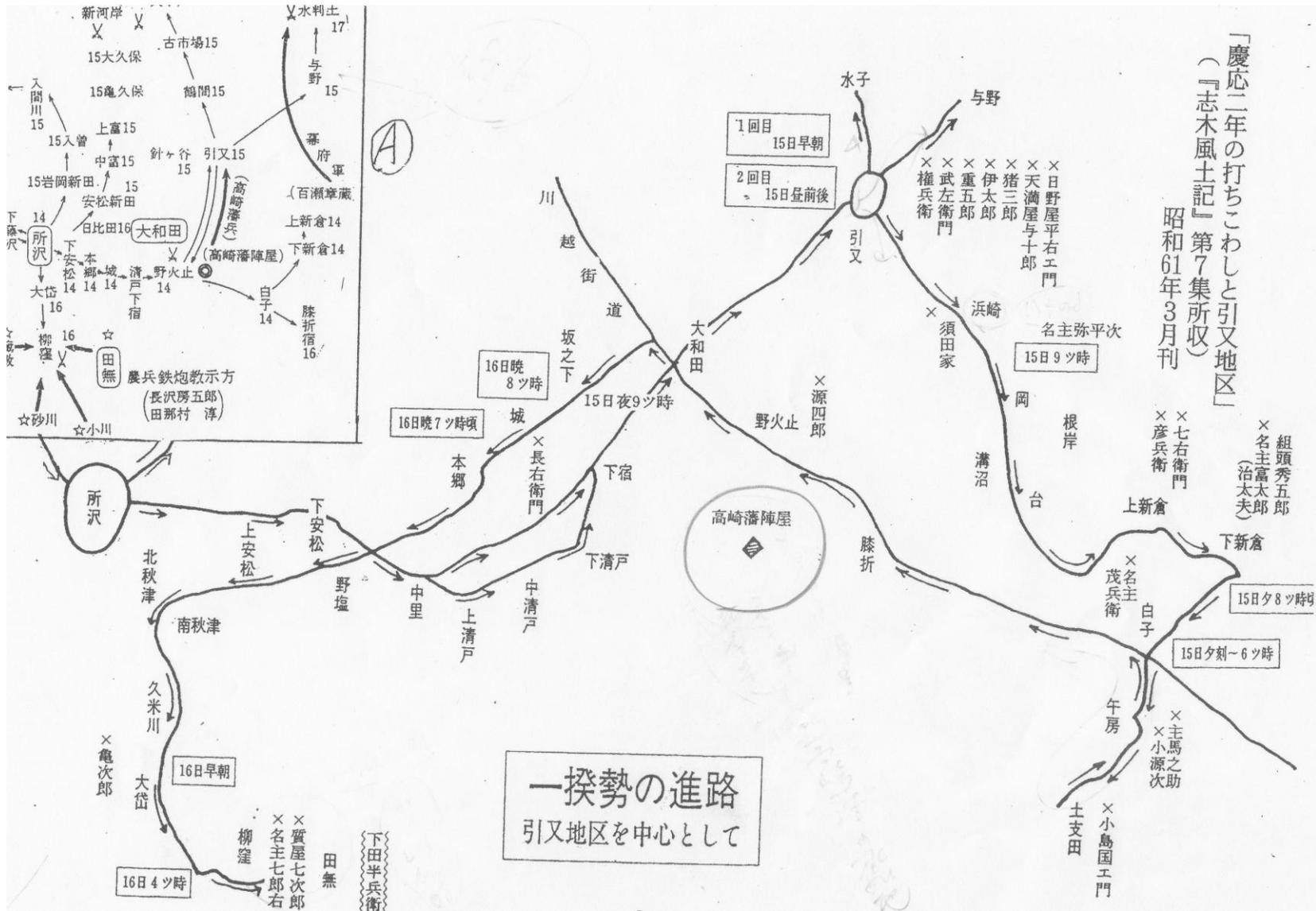
等等

魅力的な話題での講座展開でした。

<<受講風景>>

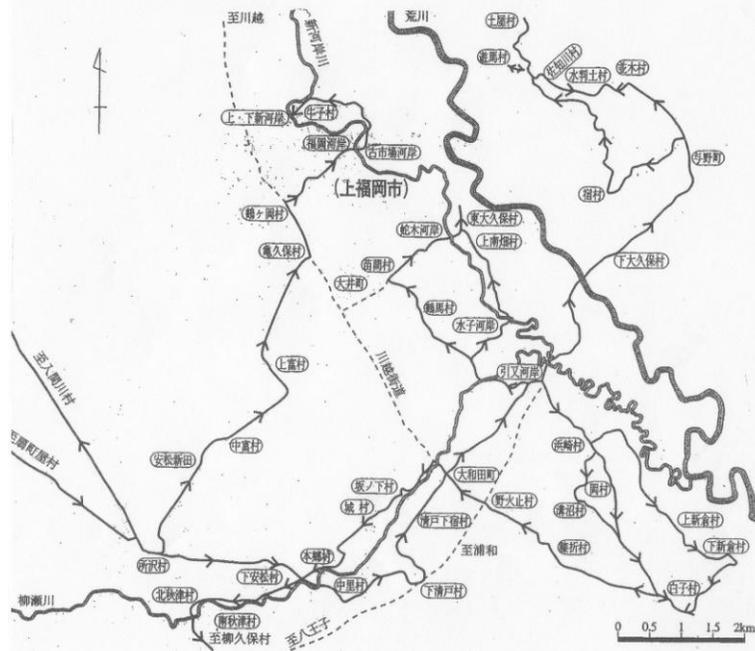


講師の神山氏は「志木風土記」に携われており富士見市域についても造詣があり話題豊富でした。特に、川越藩が鎮圧のために『貝塚山』に大砲を設置したという話は驚きでした。以下、参考のために、「武州世直し一揆」の富士見市域に関わる進路の部分とその場所の被害についての資料を抜粋しておきます。

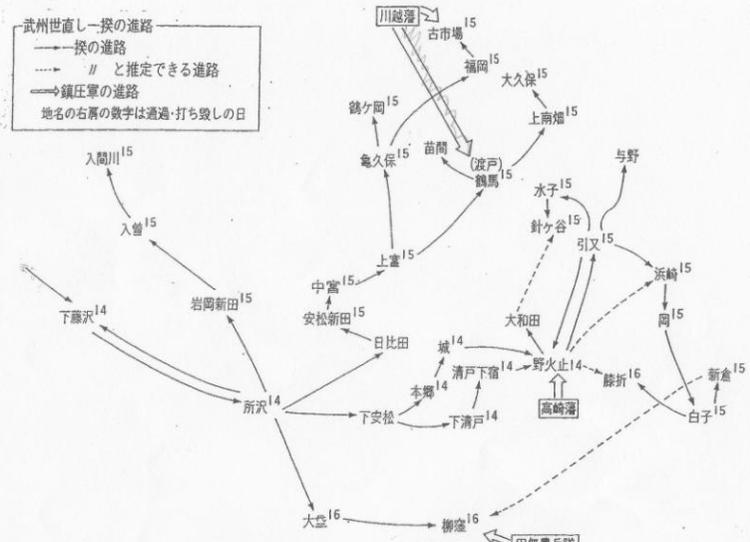


武州世直し一揆勢の進路

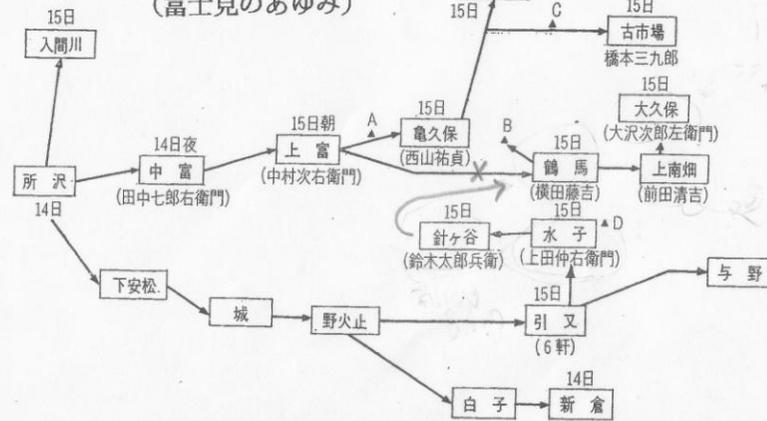
(上福岡市史)



(富士見市史通史編)



(富士見のあゆみ)



- ▲ 酒食など施したので打ちこわしにあわなかった家
- A 上富 (近江屋八左衛門) C 福岡 (福田屋)
- B 茨間 (鈴木中右衛門) D 上水子 (其家)

富士目見市域に襲来した一揆伏勢

①水子 上田仲右衛門家(水子中組の元名主)……六月十五日

地下の「カルト」に収めておいた金銭が一揆勢に発見され担ぎ出されてしま
いシンショウがいつべんに駄目になった

②針ヶ谷 鈴木太郎兵衛家(名主)……六月十五日 被害額等詳細不明

③鶴馬 横田藤吉家(妻屋)……六月十五日朝8時頃

質地の返還、質地証文の破棄・米の安売りや施米・施金を要求されるも断る
長屋門の扉の打壊し、板塀をすべて破り邸内に突入

母屋にあった衣類や家財道具一式を庭にぶちまき、どぶや泥の中に放り投げ、
兩戸・障子・畳まで打ち破り、天井をことごとく棒や竹槍で突き破る。壁や柱
に疵をつけてき倒そうとするも、間口10間・奥行4間の母屋は倒れず
8棟の土蔵も扉を破壊される

醤油醸造の道具や仕込み中のもろみ樽が打ち壊され、米43俵、大麦35俵・菜種
4俵・稗8俵が屋敷の内外に撒き散らされた

醤油の小樽30個程や塩が井戸の中に投げ込まれる
〔この時の横田家の被害額〕

塩480俵 代金約150両、江戸に出荷しようとする樽に詰めておいた醤油
一三〇両、火入れをした醤油 一〇〇両余、もろみの大樽 300両余、
建物・家財道具・衣類など 二〇〇〇両余 (同家の勘定帳)

④上南畑 前田清吉問屋……六月十五日時刻は不明 襲撃されるも被害状況は不明

後に前田の家を買って建てたという志木の魚屋の柱には刀キズがあったという

同地で延次郎(甲州無宿)、佐助(南川村)、瀬之助(二本木)、喜三郎(南畑)、
伊勢吉(南畑)の5名召捕られる

⑤大久保 大沢次郎左衛門……六月十五日時刻は不明

建物が傷付けられ、家財・米などが庭一面にぶち撒かれる
鶴馬村で徴発された人足1名が死亡

★(参考) 六月十五日 (幸領) (館村三役人出勤帳より)

此日、弥吉・文五郎・勤兵衛、才料と成、打ちこわしの仲間二成、
引又々大久保運行、人数七十六人計り、同夜中帰ル